

音楽(器楽)

I 教科、種目の観点

資料作成に当たっては、共通観点の他に、学習指導要領(平成29年3月)に示された各教科の目標や内容等に即して検討し、教科独自の観点を定めた。

1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長		
共通 観 点	(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。
	(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長		
共通 観 点	(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。
	(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。
	(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。
教科 独 自 観 点	(4)	表現領域の各分野及び鑑賞領域の関連を図ることができるような内容・構成になっているか。
	(5)	音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽の働きと関わらせて理解し、活用することができるよう工夫されているか。
	(6)	我が国の音楽に愛着をもち、世界の様々な音楽の多様性を認め、大切にしていこうとすることができるよう工夫されているか。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ(ユニバーサルデザイン)等の観点からの表記・表現や体裁の特長		
共通 観 点	(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。
	(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。
	(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。

II 選定資料利用上の留意点

- 資料の作成に当たっては、設定した観点ごとに、特に目立った事柄を取り上げること。
- 利用に際しては、全体を通して総合的に判断し、各教科書の特色をとらえるとともに、地域の実態、その他の条件を考慮して、適正な採択のための資料とすること。
- 前記の観点と次表の観点、具体項目とは、対応させて読み取ること。

Ⅲ 具体項目

音楽・器楽

観 点		発 行 者	教 出	教 芸
1	教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長			上での特長
(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。	巻頭には様々なジャンルの写真を掲載することで、楽器の音色や響きを生かした音楽文化や楽器を介しての人や社会とのつながりについて理解できるよう工夫されている。	巻頭には、有名な音楽家による、自身と音楽との関わり方に関するメッセージを掲載することで、楽器による音楽と人との豊かな関わり方について理解し、音楽の学びと自らの生活とをつなぐことができるよう配慮されている。	
(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。	和楽器（三味線、箏、和太鼓、篠笛など）では、関連する民謡や郷土芸能の解説を掲載することで、本県ふるさとの伝統や文化と関連付けて理解を深めるよう配慮されている。	和楽器（三味線、箏、和太鼓、篠笛など）では、民謡や郷土芸能などの参考曲を示すことで、本県ふるさとの伝統や文化と関連付けて理解を深めるよう配慮されている。	
2	学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長			
(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。	基本的な奏法について、手元や口元が大きく写る写真や図を使用したり、写真付きのコード表を示したりすることで、演奏上の基礎的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。	多数の写真や図版を用いたり、奏者側から見た運指の模式図を示したりすることで、楽器の特徴などの知識や表現するための技能を確実に習得することができるよう工夫されている。	
(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。	「表現の仕方を調べてみよう」では、共通点や相違点についてまとめる活動を設定することで、それぞれの楽器のよさに着目し、ふさわしい表現を考えることができるよう工夫されている。	「学びのコンパス」では、知識・技能を活用して表現を工夫する場面を設定することで、より良い表現を考えることができるよう工夫されている。	
(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。	各教材においては、演奏上のねらいを明確に示すことで、身に付ける課題を理解し、学習の見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	「学びのコンパス」では、吹き出しによって学習のヒントを示すことで、課題意識をもって友達と対話しながら主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	
(4)	表現領域の各分野及び鑑賞領域の関連を図ることができるような内容・構成になっているか。	リコーダーや箏の「聴いてみよう」では、関連する鑑賞曲を示すことで、楽器の特徴や奏法について楽曲の中で気付くことができるよう工夫されている。	各楽器の最初のページでは、参考曲や楽器の歴史的背景を掲載することで、楽器の特徴が楽曲の中でどのように生かされているのかに気付くことができるよう工夫されている。	
		鑑賞領域で学習する内容に関連した楽曲を多く掲載することで、表現領域と鑑賞領域の関連を図ることができるよう配慮されている。	さまざまなジャンルの楽曲や身近な楽器について掲載することで、学習後の生活における、音楽への興味・関心・意欲を高めることができるよう配慮されている。	
(5)	音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽の働きと関わらせて理解し、活用することができるよう工夫されているか。	各頁において、演奏上の目標を、音楽を形づくっている要素に基づいて設定することで、奏法と音楽の働きとを関わらせながら演奏できるよう工夫されている。	「アンサンブルセミナー」や「My Melody」では、目標の下に音楽を形づくっている要素を示すことで、その働きと奏法の関連について考えることができるよう工夫されている。	
		巻末の「いろいろな用語、記号」では、強弱や速度について横並びに掲載することで、記号による音楽の働きを理解しやすいよう工夫されている。	目次の次には、音楽を形づくっている要素を明示することで、各教材と記号や用語との関連について理解できるよう工夫されている。	
(6)	我が国の音楽に愛着をもち、世界の様々な音楽の多様性を認め、大切にしていこうとすることができるよう工夫されているか。	和楽器の基本的な奏法について写真や解説で分かりやすく示すとともに、唱歌も併せて取り上げることで、我が国の伝統音楽に親しみをもって取り組めるよう工夫されている。	和楽器の学習では、各楽器の特徴をより感じ取れる楽曲を掲載することで、我が国の伝統的な楽器に親しみをもち、その良さを味わうことができるよう工夫されている。	
		我が国と西洋の楽器を比較するコーナーを設定することで、楽器の特徴や背景にある文化の共通性と固有性を考えることができるよう配慮されている。	さまざまな国の楽器や楽曲を取り上げることで、諸外国の音楽文化に対する理解を深めることができるよう工夫されている。	
3	学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長			
(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。	楽譜の大きさやの筆線譜、使用する言葉など、内容と情報量を適切に記述することで、分かりやすいよう配慮されている。	文章や説明文が簡潔で、分量も適切になっていることで、活動の具体的な手立てやヒントが分かりやすいよう配慮されている。	
(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。	各楽器の奏法について、演奏順に写真を並べて掲載することで、主体的に学びを進めることができるよう配慮されている。	各楽器について、種類や奏法を豊富な写真を並べて掲載することで、比較しながら特徴を捉え、その特徴を生かした表現に迫ることができるよう配慮されている。	
(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。	文字の大きさや文中の改行位置を工夫したり、写真や図版のレイアウトを見やすくしたりすることで、内容を捉えやすいよう配慮されている。	全体的に区別しやすい配色を用いながら、形状や濃度を違えて表記することで、文字や図が確実に識別できるよう配慮されている。	